

平成31年矢巾町議会定例会3月会議

代表質問会派・議員と質問事項一覧表

番号	質問会派・議員	質問事項	答弁者
1	一心会 10番 山崎道夫	1. 第7次矢巾町総合計画前期基本計画のまとめの年の取り組みについて	町長
		2. 学校現場における過重労働軽減に向けた取り組みについて	教育長
2	町民の会 3番 廣田清実	1. 31年度町長施政方針について	町長
		2. 人口減少問題対策について	町長
		3. 31年度教育行政方針について	教育長
3	矢巾明進会 12番 長谷川和男	1. 消防救急体制の充実について	町長
		2. 県道矢巾停車場線の歩道の安全確保について	町長
		3. (株)ベン岩手工場の製品展示について	町長
		4. 政策顧問、政策秘書について	町長
4	矢巾町政策研究会 「やまゆり会」 15番 藤原由巳	1. 平成31年度の施政方針演述について	町長
		2. 教育行政方針を受けて	教育長
		3. 北上川及び関連河川水害対策について	町長
計	4会派 4名 12件	【代表質問実施日】 平成31年3月6日(水) 午前10時	町長 9件 教育長 3件

代表質問通告書

矢巾町議会議長 廣田光男 殿

受付 No. 1	平成31年2月25日	午前・午後 10時06分
議席番号 10番	一心会 山崎道夫	

番号	質問要旨
質問1	<p>(質問事項) 第7次矢巾町総合計画前期基本計画のまとめの年の取り組みについて (答弁者) 町長</p> <p>高橋町長は平成31年度施政方針演述において、矢巾町が他に先駆けて取り組んでいるフューチャーデザインは、持続可能なまちづくりとして、主要な新聞に取り上げられるなど、高い評価を得ており、国等でもその活用に向けた取り組みが広がりを見せていると話されましたが、他に先駆けて新しい手法を取り入れ、前向きに取り組む行動力にはいつも感心させられています。</p> <p>さらにこの手法を活用して全国初となる、自治体の最上位計画としての第7次矢巾町総合計画後期基本計画の策定に向け、住民参加のもと進めるとしてありますが、平成31年度は第7次総合計画前期基本計画の最終年度になります。</p> <p>いわゆる前期基本計画のまとめの年度であり、同時に後期基本計画策定に向けて、具体的に取り組むための大変重要な年であります。したがって、町長が取り組もうとしている持続可能で未来に強いまちづくりを目指すための諸施策の推進について、町民の理解を得るなかで、推し進めていくことが必要であると思うことから、以下町長の見解を伺う。</p> <p>① 第7次矢巾町総合計画前期基本計画は、平成28年度にスタートし、3年を経過しましたが、高橋町長は「チームやはば」のトップリーダーとして、さまざまな課題に立ち</p>

向かい諸施策の推進に向け、常に前向きに取り組んでこられたと理解しておりますが、特に昨年は「まちづくり改革元年」として諸施策の推進に全力で取り組んでこられたと思います。前期基本計画のまとめの年度を迎えるに当たって、この3年間をどのように評価しているのか所見を伺う。

- ② 本町はフューチャーデザインの手法により、過去2回、テーマを絞って取り組まれたとのことですが、持続可能なまちづくりに向けて、この手法を取り入れるに至った経緯と、今後取り組もうとしているテーマについて、どのようなものを検討しているのか明らかにされたい。

また、平成31年度は、この手法を活用した全国初となる第7次矢巾町総合計画後期基本計画の策定を住民参加のもと進めるとの方針が示されましたが、どのような形で計画の策定を進めようとしているのか、具体的に示されたい。

- ③ 政策推進室を発展的に解消し、未来戦略室を設置するとしていますが、第7次総合計画後期計画基本策定を控えて、政策推進室をあえて変更するに至った経緯と、そのねらいについて伺う。

- ④ 町人口3万人構想の実現に向け、UターンやIターンも含め、多くの移住定住促進に向けて雇用の場の確保が本町の大きな課題となっています。今後、企業立地に向けた用地の確保や、住み続けてもらうための宅地の確保が急務であります。

平成30年度に見直しを行った国土利用計画や都市計画マスタープランに沿って、市街化調整区域でも一定の要件が満たされれば地区計画によって開発が可能であることから、この制度を活用しながら、業務用地確保の開発支援を行うことで魅力あるまちづくりを目指して計画的な土地利用を推進していくとしていますが、今後、どのような取り組みで業務用地の開発に結びつけ、企業誘致に繋げようとしているのか、具体的な考えを示されたい。

併せて、宅地の確保に向けた見通しについても明らかにされたい。また、地区計画についての町民説明会を旧村単

位で実施するとの考えを昨年12月会議で示されましたが、いつ頃どのような方法で行う考えなのか示されたい。

- ⑤ 持続可能な開発目標（SDGs）をまちづくりに積極的に取り入れた未来都市づくりを進めていくとしていますが、その取り組みの延長線上にあると思われる、矢巾町の応援団「まちづくりサポーター」の養成と、毎月「町民懇談会」を開催するとしていますが、まちづくりサポーターの養成方法と目的、役割等を伺う。

また、町民懇談会の開催は、町主催となると思いますが、どのような方法で行うのか示されたい。

- ⑥ 今年の1月19日本町は、「スポーツの町宣言」を行い、高橋町長は「人生100年時代を迎え、未来に向かって輝き続ける矢巾をつくるには心と体が健康でなければならない。その一助となるのがスポーツ」と述べられ、誰もが気軽にスポーツに取り組める環境整備や機運醸成に力を入れていくと、強調されました。

その10日前、矢巾町に「全天候型ドームの建設構想」と大きく新聞紙上で報道されました。それは1月8日の定例記者会見で町長が公表したものでしたが、生涯スポーツの拠点施設としてのドーム建設は、町民にとっては夢と希望のある大変喜ばしい話であり、実現に向けて最大限奮闘・努力していただきたいと大きな声でエールを送りたいと思います。

しかし今回、施政方針には一言も触れておりませんが、現段階では、まだ施政方針に掲げるほどのものではないとの判断なのか、その真意を伺うと共に、町民の期待に応えるため、実現に向けた取り組みをどのように進めていこうとしているのか所見を伺う。

質問 2

(質問事項) 学校現場における過重労働軽減に向けた取り組みについて

(答 弁 者) 教育長

2018年版の「過労死等防止対策白書」によれば、過重労働が顕著な重点業種として教職員や医療など5つを挙げていますが、全国の国公立小中高などの教職員約3万5千人から回答を得た大規模調査では80.7%が「業務に関連するストレスや悩みを抱えている」と回答しています。

ストレスや悩みの内容で最も多かったのは「長時間勤務の多さ」を挙げる人が最多の43.4%を占めており、次いで「職場の人間関係」40.25%、次が「保護者・PTAへの対応」38.3%となっています。

また、「部活動の指導」については小学校ではわずかで、中学校は42.0%となっているとのことですが、長時間労働が、教員のストレスや悩みの大きな原因になっていることが、白書でも明らかになっています。

1日の平均勤務時間は11時間17分で、月20日間の勤務と考えると「過労死ライン」の80時間を大きく上回る計算になると警鐘を鳴らしています。

過重勤務の防止に必要な対策は、「教員の増員」が最多で、次いで、「学校行事の見直し」「教員同士のコミュニケーションの円滑化」「校内会議時間の短縮」の順番になっているとのこと。

そうした状況を踏まえ、以下について伺う。

- ① 町内小中学校毎の勤務時間の実態を示されたい。また、タイムレコーダーの導入は図られているのか。
- ② 過労死ラインの80時間を超えて勤務している実態はあるのか。
- ③ 過重勤務の防止に向けた取り組みをどのように進めているのか。
- ④ ストレスチェックは定期的に実施し、ストレスに早く気づいてもらう取り組みを行っているのか。

また、ストレスや悩みが大きい場合、どのような対応を
されているのか。

- ⑤ 定期健康診断のほかに人間ドックの受診を働きかける
などの取り組みは行われているのか。
- ⑥ 教育委員会として職場ごとの分析を行い、その結果を環
境改善に生かすなどの取り組みは行われているのか。

代表質問通告書

矢巾町議会議長 廣田光男 殿

受付 No. <u>2</u>	平成31年2月25日	午前・ 午後 9 時00分
議席番号 <u>3</u> 番	町民の会 廣田清実	

番号	質問要旨
質問1	<p>(質問事項) 31年度町長施政方針について (答弁者) 町長</p> <p>3月21日の町長の施政方針において、未来の矢巾町の姿、来年度の対策について下記を問う。</p> <p>① 未来戦略室を新設しますが、目的と内容について問う。 ② 団塊世代が後期高齢者となる「2025年問題」への具体的対策について問う。 ③ 児童虐待が全国的に大きな問題になっているが、本町の各種団体との連携について問う。</p>

<p>質問 2</p>	<p>(質問事項) 人口減少問題対策について (答 弁 者) 町 長</p> <p>本町は微増ではあるが人口が増加している。しかしながら、本町においても人口減少問題は、未来において避けられない課題である。現在微増あるから対策をしなくても良いのではなく、今だからこそ対策すべきであり、減少し始めてからでは多くの労力費用を要すると思われる。</p> <p>そのことから、今後の方針や対策について下記を問う。</p> <p>① 定住促進住宅の建設について、労力や金銭等の町負担軽減、経費削減の観点から、P F I方式による建設の考えはないか問う。</p> <p>② 町営住宅の老朽化に伴い平成31年度に策定予定の「矢巾町住宅マスタープラン」のスケジュールを問う。</p>
<p>質問 3</p>	<p>(質問事項) 31年度教育行政方針について (答 弁 者) 教育長</p> <p>3月21日の教育長の教育行政方針において、いじめ問題、環境整備等、児童生徒の学校環境の整備、対策について示された。その事は当然であるが、本町の学力向上についても、定住促進等の観点から重要視されるべきと考えることから下記を問う。</p> <p>① 「確かな学力の保障」とあるが、来年度の予算も今年度と変わらないように感じる。来年度以降どのような対策を行うのか問う。</p> <p>② 矢巾町教育研究所は、学力向上にどのように関わっていくのか問う。</p>

代表質問通告書

矢巾町議会議長 廣田光男 殿

受付 No. 3	平成31年2月22日	午前・ 午後 9時00分
議席番号12番	矢巾明進会 長谷川 和 男	

番号	質問要旨
質問1	<p>(質問事項) 消防救急体制の充実について (答弁者) 町長</p> <p>① 町の基本は、第一は、誰もが安全で安心して暮らせるまちであり、第7次総合計画、第4章の「快適性と安全性を高めるまちづくり」の中の消防救急体制の充実について伺います。</p> <p>盛岡広域消防本部は、矢巾町は国の消防力の整備指針を満たしており、矢巾分署を本署への昇格を、早期実現されるよう求めており、また、第七次総合計画では、平成31年度に矢巾消防署への昇格を明記され議会の議決を得ている。最重要項目として掲げた事業の計画策定をどのように構築していく考えなのか伺う。</p> <p>② 高橋町長は、就任1年後の平成28年度に消防署昇格の方針である旨の発言をされており、その後町長は、消防学校と一体となった防災拠点構想等の話など、また、本年1月6日の消防団出初め式後の消防団新年会挨拶において、町長は、消防学校を一体拠点としてスマートインター付近に設置したい旨の挨拶をされているが、しかし第7次総合計画で議会の議決の重さを軽んじているのか、矢巾消防署昇格は各方面からも提起されており、消防学校の移転については、具体的な検討段階に入っているのか、相当な歳月を要すると考えられるが、このような実情の中、町長は第7次総合計画での矢巾分署の消防署昇格について、どのような考えなのか。</p>

③ 本町の非常備消防の充実について伺う。消防団員の定数は380人であるが、現在の団員数は323人で、欠員が57人となっている。団員の多くの雇用形態は、サラリーマンが圧倒的に多数を占めており、また役場職員49人、農協職員9人、一企業の3人と団員確保に毎年苦労をされており、一般企業においては、経営の合理化、人件費も含め効率化を求める競争社会の現状の中、欧米社会のようなボランティア社会が充実している国とは違い、企業に勤める会社員が有事の際の出動、また、消防団の早朝、休日、平日の訓練等、企業側、無論家族の理解無くしての入団は難しいのではないかと感じております。この現状を踏まえて、町当局と消防団は打開策を協議されておることと察します。

雇用の立場である企業に、町として協力いただける策として提案ですが、現在は、ふるさと納税は個人に限定されております。利益を生むことを前提としている企業が活用できるのであれば、企業型地域協力納税の矢中型ブランドを創生し、社員の奉仕活動に当たる人件費を算出し、協力出来る企業に対応した企業納税を創設し、これからの人口減少社会で団員確保が増々難しいと予測されることから、安全・安心で備えある町創りの課題として検討すべきと思うので伺う。

さらには、団員の報酬及び出動手当について、町として検討すべきと思うがどうか。

常備消防問わず、常に危険を伴う仕事であり、県内は無論毎日のように発生する火災で死者が多数出ており、また、多様な火災で大災害もあり、この問題は、大局的な観点から早期の打開策を講じる必要があり、伺う。

<p>質問 2</p>	<p>(質問事項) 県道矢巾停車場線の歩道の安全確保について (答弁者) 町 長</p> <p>医大附属病院移転に伴い、本町に多くの方々が来町し、弱者の方は無論のこと、冬の雪道を歩くのは高齢者も含め危険であり、現実には学生達も転倒しております。矢幅駅前通りから県道矢巾停車場線の歩道両側にロードヒーティングを設置して、誰でもが安心して歩ける歩道になることを要望します。</p> <p>また、現在県道は、自転車が歩道を通行許可になっている為、今までに歩行者も含め大小の事故が発生しており、自転車専用道を設けるべきであると思うがどうか。</p> <p>県道207号矢巾停車場線は、矢巾町の街の中心地で、車も往来歩行者も交通量は、町内で一番多いのではないか。県所管の管轄であることから、是非とも県当局と協議を検討されるようお願い、伺う。</p>
<p>質問 3</p>	<p>(質問事項) (株)ベン岩手工場の製品展示について (答弁者) 町 長</p> <p>株式会社ベン岩手工場は、矢巾町の物造りの歴史の中で、戦前から戦後、物造り製造し、国内は基より世界にも輸出されている企業であり、我がまち矢巾にとって誇れる会社であると思っています。1945年に旧海運省より本社工場移転を命ぜられ、現在地に岩手工場として昭和25年に社名をフシマンバルブ製作所が創立、のちに社名をベンと改称、自動弁メーカーとして、流体制御弁の専門企業として、創立以来価値ある商品を国内外に製造販売しており、一昨年8月に新工場を議会で見学した際に、素晴らしい製品を町で展示できればと、また説明された担当者からは展示品も用意できるとの事であった。早速この事を町当局に伝え、その後庁舎も含め検討するとの事であった。駅や役場などに製品を展示することで、町民や町を訪れた方に知って頂く良い機会になると</p>

	<p>考えます。一年半も経過しているがどの様にされているのか伺う。</p>
<p>質問 4</p>	<p>(質問事項) 政策顧問、政策秘書について (答弁者) 町 長</p> <p>新年の定例記者会見において、管内初の全天候型ドーム、スポーツの拠点施設を作ることを打ち上げられ、掲げた政策、基本的な総合事業計画など新たに取り組まなければならない政策が山ほどあります。私が、議会12月会議で提案申し上げた政策顧問または政策秘書について、高橋町長は前向きにと捉え検討する答弁であったが再度お伺い致します。</p> <p>矢巾町は県内外から注目されており、また、総合政策立案施行の課程において重要なポストであることから、新年度のスタートからお考えなのか、人材の見通しはついているのか伺う。</p>

代表質問通告書

矢巾町議会議長 廣田光男 殿

受付 No. <u>4</u>	平成31年2月22日	午前・ 午後 9時45分
議席番号 <u>15番</u>	矢巾町政策研究会 やまゆり会 藤原由巳	

番号	質問要旨
質問1	<p>(質問事項) 平成31年度の施政方針演述について (答弁者) 町長</p> <p>2月21日に開会した今3月会議における高橋町長の所信表明を受け、以下について質問します。</p> <p>① 財政運営についてですが昨年の所信表明では積極的な投資や先駆的な取り組みを「まちづくり改革元年」と位置づけて推進するとありましたがその成果はいかがか伺う。そして、将来負担比率が県下ワーストに近い本年度における地方債等の総額とその償還計画を伺う。</p> <p>② 2025年問題から地区公民館を拠点とした「エン(縁)ジョイやはばネットワーク」の構築とあるがその具体的手法について伺う。</p> <p>③ 土地利用計画において、市街化調整区域でも一定の要点が満たされれば地区計画によって業務用地確保の開発支援が可能とあるが本町ではどの地区を想定するか伺う。</p> <p>④ 大きく変貌する社会環境の中で、「コミュニティ計画」に基づき活動の推進を図るとあるがその具体策はどうか。</p> <p>⑤ 農業振興策の中で、予算的には要望に沿った予算編成と思えるが、数年前からの大きな課題であった医大附属病院への地元農産物の供給はどうか。ほぼ絶望と捉えるが今後9月の開院までと将来に向けた交渉をどう考えるか伺う。</p> <p>⑥ 同じく農業政策の中で、昨年末に発効したTPPによる</p>

	<p>本町農業への影響をどう捉えているか。併せて、今県議会ではTPP対応の補正予算約58億円を計上しているが本町への配分とその対策をどう考えているか伺う</p> <p>⑦ 企業誘致についてはあまり述べられていないが、本町の将来を考えた時には、大きな課題と考えるが、現状での企業との誘致に向けた交渉はどのようなになっているか伺う。</p> <p>⑧ 観光振興策がなかなか思うように進まないと考えるが、「ひまわり畑」「徳丹城跡」以外に矢巾町ならではの観光資源の発掘はどうか。また、医大附属病院開院に伴い交流人口の大幅増加に向け、矢幅駅舎内に観光協会の本部と観光案内所を設置すべきではと考えるがいかが伺う。</p> <p>⑨ 環境政策のなかで多くの施策が述べられ、環境先進地として取り組むともあったが、予てからの課題として、医大附属病院開院にむけての「イセファーム」の悪臭対策があり、昨年末には町長も東京本社に出向いて交渉したと聞いたが、その後の経過なり「イセファーム」の今後の進め方について現段階での町長の見解を伺う。</p>
<p>質問 2</p>	<p>(質問事項) 教育行政方針を受けて (答 弁 者) 教育長</p> <p>和田教育長の教育行政方針から以下について伺います。</p> <p>① 総体的には、今年の教育行政方針よりも具体的な施策が感じられないと思ったが、再度学校教育及び社会教育の重点施策と、「音楽」「スポーツ」のまち宣言をふまえての31年度の具体的な施策を改めて伺う。</p> <p>② 以前からの課題と言われている学区の再編については、新たな組織の立ち上げも計画されているが、今回の方針においても「町の行政区の動向注視」とあり、簡単には進まないのでは思うがいかがか伺う。また、紫波町で計画している小・中一貫校へ本町としての考えはどうか伺う。</p> <p>③ 西徳田、東徳田地区を中心「徳丹城周辺活性化推進協議会」を立ち上げ、周辺の将来のあり方を模索しているが、</p>

	<p>先般「徳丹城史跡整備活用指導委員会」にて曲がり屋北側水田を将来的に町が取得し様々な活用策も考えていきたい旨の話もあったと聞いたがその計画はどうか。併せて、本年の徳丹城春祭り開催に向けての考えを伺う。</p>
<p>質問3</p>	<p>(質問事項) 北上川及び関連河川水害対策について (答弁者) 町 長</p> <p>近年全国各地で多発している自然災害は大きな被害をもたらしていることから、本町に係わる「北上川」とその支流である「逆堰」の水害対策について以下伺います。</p> <p>① 本町においては、北上川から岩崎川にかけて概ね浸水区域とされているが、区域住民への周知はどうか伺う。</p> <p>② 北上川と合流する「逆堰」が毎年のように一部で氾濫し被害を出しているが、場合によっては藤沢地区の下田工業団地からゴミ焼却施設まで浸水被害の可能性がある。については、逆堰左岸の土手嵩上げ、合流部への排水ポンプの設置、合流部の北上川河川敷での掘削等の対策が想定されるが現段階での考えを伺う</p> <p>③ 北上川上流部での対策はどう進められているか伺う。</p> <p>④ 全ての災害時に関係するが、少子高齢化の進展から近年特にも増加している「要支援者」対策を伺う。個人情報等から公表の難しい制度であるが本町では昨年一部防災関係者にて確認されたが「要支援者」登録が少ないことからその増加方策と、関係者への公開を望むがどうか伺う。</p> <p>⑤ 以上の事をふまえた中での新たに北上川水害対応避難マップの作成についての考えを伺う。</p>